

令和6年度第1回葉山町総合教育会議 会議録

- 1 開会年月日 令和6年7月17日（水）
- 2 開会場所 保育園・教育センター会議室
- 3 出席者 町長 山梨崇仁
教育長 稲垣一郎
教育長職務代理者 小峰みち子
教育委員 鈴木伸久
教育委員 下位勇一
教育委員 清水衣里
- 4 出席職員 教育部長 虫賀和弘
教育総務課長 武藤達矢
学校教育課長兼教育研究所長 瀨名恵美子
生涯学習課長兼図書館長 守谷悦輝
- 5 議長 町長 山梨崇仁
- 6 書記 教育部長 虫賀和弘
- 7 開会 午後2時00分
- 8 閉会 午後2時52分
- 9 協議事項 (1) 学校再整備に係る取組状況について
(2) 教育ビジョンについて
(3) その他

(開会宣言)

教育部長) ただいまから、令和6年度第1回葉山町総合教育会議を開会いたします。

時刻は14時です。

総合教育会議は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律第1条の4第1項」の規定により設置され、同条第3項の規定により、町長が招集することとなっております。

また、本会議は、地方公共団体の長と教育委員会という対等な執行機関同士の協議及び調整の場という位置づけであり、会議において調整がついた事項は、それぞれが尊重義務を負うものの、この場で決定を行うものではありません。また、地方公共団体の長の諮問に応じて審議を行う諮問機関でもないことを申し添えます。

それでは、総合教育会議設置要綱第4条の規定により、「町長は、会議を招集し、その会務を総理する。」となっておりますので、これ以降の進行は山梨町長にお願いします。

町長) 本日の会議について、傍聴人が1人いることをご報告いたします。

本日の協議事項は、次第のとおりです。協議事項についてよろしいでしょうか。

委員全員) 異議なし。

(学校再整備に係る取組状況について)

町長) それでは、協議事項(1)「学校再整備に係る取組状況について」を議題とします。教育総務課長より説明いたします。よろしくお願いします。

教育総務課長) 学校再整備に係る取組状況についてご説明いたします。

学校再整備に関して、今年度は4月に学区アンケートを実施したほか、昨年度からの引き続きの取組として、学校施設あり方検討委員会やワークショップを開催しています。

学校施設あり方検討委員会については、5月23日の学区・整備候補地の検討に引き続き、明日7月18日に第3回を、9月、3月に第4回、第5回を予定しています。また、6月23日に第1回を開催したワークショップについても、8月、10月に開催し、広く意見を聞きながら、基本構想・基本計画(案)をまとめていきます。今年度まとめた基本構想・基本計画を、令和7年4月にパブコメにかけ、6月の確定を目指します。

なお、議会に対しては適宜報告していきますが、まずは今年の9月に候補地案と方針案を示したいと考えています。

6月23日に開催した第1回ワークショップのねらいとしては、①学校施設の再整備という政策決定プロセスに、保護者・教員・子ども等の参画を求め、より多くの町民を、楽校をつくる当事者にしながら、基本構想・基本計画の土台となる想いを集める②集まった想いのうち、既存の学校でもできるものを試作し、検証する、の2点です。

今回のワークショップの参加者ですが、学校運営協議会委員6名、PTA5名、教員9名、大学生1名、公募6名の27名、ファシリテーターとして地域学校協働活動推進員6名、教育委員会事務局職員2名、来賓として14名でした。第1回は中高生の参加がなかったため、第2回、第3回は積極的に中高生の参加を呼びかけたいと考えています。

連携協定を結んでいる東京学芸大学の金子教授に、ワークショップでご講義い

いただきました。「共に築く未来のまちづくり・個々の才能と地域の連携」という
題目で、これからの学びや学校施設のあり方について、ヒントとなるお話をいた
だいています。

当日アンケートの結果では、全体的に好意的な意見をいただきました。特に
様々な意見や考え方があるとの意見が多くありました。

ワークショップで4グループから出た意見・アイデアについて、技術者の視点
から日本設計がまとめた資料です。ここでは、学校教育や学校生活、環境、防災
拠点、地域連携といったように、大きくグルーピングしています。

今後はこういったまとめを基本構想・基本計画における考え方や方針の整理と
して活用していきたいと考えております。

一方で、ワークショップでは、少しこちらの学校への懐疑的意見、それから、
地域へ開放することの懐疑的意見ということで、必ずしもポジティブな意見だけ
ではなくて、少しマイナスの意見というものも実際には出ておりました。こうい
った意見につきましても、基本構想・基本計画とは、直接的ではありませんが、
学校運営上の課題として捉えていきたいと考えております。

雑駁ではございますが、以上が学校再整備に係る取組状況になります。ご協議
いただけますよう、お願いいたします。

町長) ありがとうございます。先日のワークショップの開催のご報告につきまして、
まだ道半ばではありますけれども、皆様から本件につきまして質問、ご意見、そ
の他ございますでしょうか。お願いします。清水委員。

清水委員) 私も参加させていただいて、活気ある会でありましたし、今後小・中学生の方
の参加も考えていただくということで、次回も楽しみにしています。今回は公募の
方が6名だったということで、公募の方はどのような構成だったか教えていただ
けますか。

教育総務課長) 基本的には公募の方は、1名大学生の方がいらっしゃいまして、そのほかには
地域の方が中心に、公募として参加していただいております。

清水委員) 次回は公募の方の参加が多くなるような広報とか、仕組みは考えていращや
るのでしょうか。

教育総務課長) 基本的には今後の取扱いとしましては前回と同様にさせていただきたいと考
えておりますが、ただ、中高生につきましては、非常に今回参加が少なかったもの
で、学校を通じて、先日もチラシをまいていたりしているところがございますの
で、あらゆる媒体を通じて広報していきたいと考えております。

清水委員) ありがとうございます。

町 長) 他にいかがでしょうか。下位さん、お願いします。

下位委員) 今回1回目で、全部で3回ですか。

教育総務課長) 今年度3回でございます。

下位委員) 8月に2回目があって、3回目はまた冬ぐらいですか。

教育総務課長) 10月中を考えております。

下位委員) 10月、承知しました。参加した方からいただいた意見として、もっと学校の先生、一般職員の先生方が参加してくれたほうがいいんじゃないとか、町内会の方もいらっしゃったと思うんですけども、もっと町内会の方が参加したほうがいいんじゃないかなという話も出てましたので、その辺りも次回、もし、これから募集をかけるようであれば、特に学校の一般教員の方は、もし出られる方がいらっしゃったら声かけていただきたいなと思いました。

内容としては非常によかったと思いますし、すごく熱い議論が交わされてたようです。ただ、やっぱりちょっと時間が足りなかったのかなという感想もありますので、もしかするとディスカッションの時間をもうちょっと長くてもいいのかなという気がしました。

町 長) ありがとうございます。何かありますか。よろしいですか。

教育総務課長) この今回のワークショップにつきましては、先日行いました、校長先生たちが開催します戦略会議に報告させていただいております。おっしゃるように、管理職の先生が中心だったんですけども、今後は一般の先生方にも参加していただけるよう、協力を仰いでいるところでございます。

下位委員) よろしくお願いします。

町 長) ほかにいかがでしょうか。

鈴木委員) 僕自身は非常によかったなと。今、下位委員が言われたようにね、どんどんいろいろなものを積み重ねていくという効果は非常に高いというのはすごく感じました。初めての経験だったんで、どうなのかなと思ったんだけど、結構みんな活発に意見を言っていたところはあるかなと。

ただ、僕はやっぱり早く新しい校舎の日の目を見たいなと。これは議会の皆さんも学校を見ていただいて、その状態の悪さというのは多分町長以下皆さんご存じだと思うんですけども、大変お金がかかることなんで何とも言いにくい話なんですけど、私は何とかこのタイミングで、早い時期に構想を上げて行って、子どもたちのこの学びの場というのは、私も企業家なんで、企業の机が汚かったり、建物が古いとみんなぱっととしないものですから、やっぱり新しい学校で、新しくしていくということが最善なんじゃないかなと思う。町長の目の前で言いにく

いけども、非常にお金のかかることなんで、やってくださいと簡単に言うわけにもいかないんですけど、その再整備という言い方の中にはそれも一つ含まれてきていいんじゃないかなと思っていました。その方向で、私としてはぜひお願いしたいなという感想を持っているんですけども。

町 長) 分かりました。

小峰委員) 私も、ワークショップに関してはとても活発で、皆さんしっかりとした意見を持っているなということは感じました。ただし、当日のアンケートにも書いてあったんですけども、思ったより同じ意見の人とか、同じ方向をみんなが向いてるなということを感じたというお答えがありましたけれども、その辺りは、反対の意見は出てこなくて、これでいいのかなと思うところなんです。やっぱり地域の方を巻き込むということは、同じ考え方じゃない人たちがたくさんいるということ的前提を考えなきゃいけないかなと思っています。こういうところに来てくださる方はそういう意欲をもって、新しいことをしようとする気持ちのある方が多いので、やっぱり話し合っていけば、いい学校をつくるためにどうしようかという意見では、かなり同じ方向を向いているのかなと思うんですが、例えば今、私も葉山の小・中学校でPTA活動がどの程度盛んに行われて、それに参加する意欲のある方がどのくらいかということは、詳しくは分からないんですけども、下位委員のようにね、PTAの方たちもしっかりと把握できるような方がいると、PTA活動って楽しいよとか、意義があるよという方向に持っていっただけなんですけれども、多くの保護者たちが必ずしもそうではないのだと思うので、世の中の現状としても、PTAなくていいというような学校もあったりするわけですから、いかに、ここには参加しない人たちの意見をどう吸い上げるかということがとても大事だろうと思います。特に私など、子どもの話よりも、介護の話ばかりが耳に届くのです。「あそこのうちの介護は大変で、事件が起こらないかと思って心配しているのよ」とかって言われるような、そういうことしか耳に届かないので、清水委員や下位委員など保護者世代の、若い方たちがアンテナを高くして、保護者の方たちの意見を吸い上げていただくというのは、聞けない声を聴くという意味で、本当に大事かなと思います。

結局は、ワークショップ自体は成功だったと思うんですけど、じゃあこれでみんな、町民の方たち、葉山町の人たちが、学校について前向きに…学校って、「楽校」ですよ。そちらのほうを本当に理解して向いてくれるかなということ、まだまだ私たちがしっかりと見定めなきゃいけないんだなということを感じます。これからもワークショップの中で参加者を多くするとか、子どもたちや先

生方の意見を聞く場を設けるというお話もありましたけれども、ぜひそういった努力も必要だなと思いました。

町長) ありがとうございます。よろしいですか。

教育長) ワークショップについては毎回お話ししているとおり、学校を何とか地域にもう一度戻すためのスタートラインでしかないと思っているので、ここから順番に本年度の3回で終わるわけでもなく、来年度も再来年度も学校が続いていく限りはワークショップは何らかの形で続けていくのが筋だと思っています。

その中で、委員の方からご意見いただいたとおりで、やはり一番の問題は、今回でも、ベクトルが同一の方々はどんどん前に進めようというのは当然の話なんですけど、この中でも、学校への懐疑的な意見というところを出されていた方の意見も当日も耳にしています。これ何かというと、残念ながら学校が閉鎖的になってから、恐らくその頃にお子さんだった、あるいは学校に通う年齢だった方だと思いますけども、ご本人自体がそもそも学校に通えてなかったという方もいらっしゃった。そういう中で言うと、学校というものはご自身にとって身近なものではやはりなかったんだというお話もされてました。そうなっていくと、やはりなぜ学校に行かなかったのかというところについて、今、大人になられていて、ここに参加してくださっているという理由は当然そこにあると思いますけれども、地域の中の拠点としての学校の位置づけをもう一度やはり作り直さないと、やはり学校を再生する意味というのはなかなかないだろう。

さらに言うと、もう一つの観点としての、常に言われている地域コミュニティーだけではなくて、防災拠点という考え方をしっかりと持っていかないと、やはりなかなか学校というものに親近感を多分覚えることもないでしょうし、これも町長がよく言われてることですが、毎年毎年順番に、学校を移しながら、10月に多く行われていると思いますけれども、防災のね、訓練をしっかりと学校というところでやっていく。学校に皆さんは最悪の状況のときに逃げていくんだという状況を、やはり皆さんが本当に理解をしながら、どんな学校をつくっていくんだというイメージを、お一人お一人が持っていただく。小峰委員がたまたま介護の話がというふうにおっしゃっていましたが、介護のお話もそうかもしれませんが、介護拠点ではないと思いますけれども、防災の避難拠点であることだけは事実ですから、そこについての物の考え方も、やはりどんな、いわゆる避難所であってほしいという話もね、やはり私たちがつくっていくときに、これは町部局マターではありますけれども、その意見を正確にこちらが把握しながら学校を再生していくということをしていかないと、やはりミスマッチが起きてしまって、

できた結果として、違うじゃないですかという話についてが、一番町民にとってはマイナス要因になりますので、そうならないためのワークショップというのは、もしかすると観点を変えながら、防災レベルの拠点としての学校をどうつくるかという、例えばワークショップをつくってみるとか、いろんなことをやっていってもきつといいんだろうなと思っています。

先の長い話でございますので、今日は途中経過ということでお話をさせていただいていますが、様々ご意見をいただきながら、回を重ねていく、とにかく積み重ねていくことが一番だと思っていますので、今後もぜひ助力をお願いできればと思います。

町長) ありがとうございます。私も皆さんと方向同じです。1点だけ、金子先生の話、極楽と楽しいとしんどいと。学びとは違った視点の、人間のスタンスを解釈、説明されたような話、非常に、学校の本来持つ機能と、人育ての機能というのを共有できたかなと思っています。ああいった意味で、学校を中心にみんなが、社会がその合意形成に向かっていく、みんなが学び合える、そんなワークショップというふうに思うところでございます。ありがとうございます。

では、協議の1につきましては以上でよろしいでしょうか。

(教育ビジョンについて)

町長) では、引き続き協議事項2に入りたいと思います。教育ビジョンについてを議題とします。引き続き教育総務課長からご説明をお願いいたします。

教育総務課長) では、教育ビジョンについてご説明申し上げます。

まず、現在、葉山町教育委員会では、教育の合い言葉として、先ほどから何度かお話にも出していただいています、楽しいという字を当てた「楽校をつくろう！」をスローガンに、様々進めているところでございます。ワークショップとか、あるいは、このところ地域協働活動推進員さんとの打合せ、会議ですとか、様々なところでこの「楽校をつくろう！」をご紹介差し上げていまして、少しずつですけれども、何となく地域の方々にも浸透してきたような実感があります。

この合い言葉を踏まえまして、未来に向けた教育のビジョンということでまとめさせていただきました。少し読ませていただきます。

少子高齢化、人口減少時代の中、世界は急速に変化し、予測困難なものとなっています。同時に、AIに代表されるデジタル技術の発展により、今より格段に便利で豊かな社会が現実になろうとしています。このような目まぐるしい時代において、真に必要な教育とは何でしょうか。

未来を担う子どもたちは、生まれながらにして多様で、優れた学び手です。自ら「気づき・考え・仮説を立て・行動し・振り返る」そんな社会で通用する課題解決サイクルを自然と繰り返しながら成長していきます。葉山の「楽校」は、子どもたち一人一人の本来の力を信頼し、できるだけ子どもたちに委ねる自由な学びを目指します。小中一貫教育を通して、わくわくする学びと探求の鍛錬から、自律的・創造的・対話的に行動できる社会に生きる力を育てていきます。

また、「楽校」では、大人こそわくわくし続けていることが大切です。学び続けること、学びを通してつながることの全てを「楽校」と捉え、社会の個人のウェルビーイングを最大化していきます。「楽校をつくろう！」を葉山の教育に携わるみんなの合い言葉に、わくわくし続けられる未来を切り開いていきましょう。

このように、現在の状況に問いを立てて、社会と個人のウェルビーイングの最大化を目指す、そしてわくわくし続けられる未来を目指すというものを未来の教育ビジョンとして位置づけました。

続きまして、計画体系の見直しです。ただいま申し上げました教育ビジョンを進めていくに当たりまして、今後、進む方向の明確化と達成すべき目標の焦点化・具体化、そういったものを目指しまして、計画体系を現在の4年間の基本計画としている葉山町教育総合プランにつきまして、第四次葉山町教育総合プランにつきましては、10年間の中・長期目標としての教育ビジョンと、単年度単位の実施計画の2階層への見直しを考えております。単年度単位の実施計画につきましては、短いスパンでの実践と振り返りの繰り返しを見込んでの設定とさせていただきます。

続きまして、楽校をつくる5つの“もっと”です。この5つの“もっと”を短期計画の骨子とします。まず、学校教育の一丁目一番地であります、わくわくする学び、それからインクルーシブの一人一人の学び、それから生涯学習としての生活の学び、そして地域とつながり、通いたいと思える空間づくり、これらを一体的に進めることが楽しい楽校づくりの基本となると考えています。

今ご紹介した5つの“もっと”を働きかける新しい挑戦としまして、「楽校をつくろう！」の推進体制の構成イメージです。こちらにあります、この地域・学校・教育委員会をつなぐこの体制としまして、こちらにありますコミュニティ・スクールですとか、楽校戦略会議等が整備されております。今後はそこに大学等の研究機関との連携ですとか、学校施設の整備、あるいは予算という形のような資源を有効活用することで、基本施策である5つの“もっと”を推進していきたいと考えています。

以上が葉山町の現在考える教育ビジョンになりますが、ここから、少し参考としまして、石川県加賀市が作成する教育ビジョンにつきましてご紹介します。こちらを少し葉山町としては参考にしていきたいと考えています。

加賀市には、学校教育ビジョンとしまして、2023年から2025年を計画期間として策定しています。こちら、「Be the Player 自分で考え 動く 生み出す そして社会を考える」というものを、加賀市の学校教育のビジョンとして、スローガンとして掲げています。ここが、葉山町では「楽校をつくろう！」というのがまさに共有されるスローガンとして考えています。

「なぜ今、教育を変えるのか？」という問いを立て、目標を設定しています。冒頭で説明させていただきましたとおり、葉山町でも未来の教育ビジョンの中で問いと未来の目標を掲げているところがございます。

以降は、教育ビジョンの内容に入っていきます。

少し進みますが、教育ビジョンの4つのプロジェクト、これが加賀市の立てている基本的な施策になります。葉山町の基本施策である5つの“もっと”がこれに対応する部分になってくるかと思えます。

そして、次はそれぞれのプロジェクトの内容説明です。まず、学びを考えるプロジェクト。ここでは、学校の学びを支える伴走メニュー、教室の空間デザイン、それからICT等を使った授業支援ツールの整備等を掲載しています。

続きまして、2つ目のプロジェクトで、誰一人取り残さないプロジェクト。ここでは、不登校支援ですとか、地域との共創等につきまして、こちらに考えを掲載しています。

続きまして、20ページになります。こちらが3点目の、未来は自分で創るプロジェクトです。探求的な学びをSTEAMプログラムとして紹介しています。

最後、4点目です。25ページにあります地域と一緒にプロジェクトでは、コミスクですとか、保護者との関わり、それから部活動の地域移行等につきまして掲載をされています。

以上が、ざっとであります。加賀市の教育ビジョンのイメージです。葉山町でも10年先を見据えた教育ビジョンを作成しまして、5つの“もっと”による「楽校づくり！」を進めていきたいと考えております。

以上が教育ビジョンのイメージです。

町長) よろしいですか。では、皆さんからご意見、質問等ございましたらよろしくお願ひします。

下位委員) 葉山町の5つっておっしゃってるのは、今ここでご紹介いただいた、“もっと”

が5つっておっしゃってましたっけ。これのことですか。

教育総務課長) この“もっと”の5つ。

下位委員) これと加賀市の4つが対照的になっている…。

教育総務課長) 対照的になろうかと思えます。

下位委員) ありがとうございます。

町長) どうぞ。

清水委員) この資料は大変分かりやすいです。また加賀市の事例も参考になります。本資料は、今後は町民の方にも発信されますか。

教育総務課長) 葉山町の教育ビジョンとしましては、公表していくことになります。

清水委員) 「楽校をつくろう！」ワークショップは、皆様のご努力もあり、教育に関心のある方には浸透してきていると思います。最近よくお尋ねいただくことがあります。楽校をつくる、楽しい学校はわかりやすく、今回の『楽校をつくる5つのもっと』わくわくする学び、一人一人の学び、生活に学びを、つながる地域を、通いたい空間を、それについて反対意見は無いかと思えます。しかし、その実現＝なぜ小中一貫なのかというご意見です。私はいろいろな会議でご説明を受けているので理解しています。しかし今回の資料表記にその点が無いです。今ご準備されてる資料もあると承知しておりますが、なぜ楽校をつくる＝小中一貫なのかということが加えていただけると、より一層分かりやすいと思えます。意見として申し上げたいと思えました。以上です。

教育総務課長) 今おっしゃられる小・中一貫の効果といえますか、在り方につきましては、今後もっと丁寧に説明していきたいというふうに考えています。その小・中一貫の9年間があってこそ、この5つの施策であり、「楽校をつくろう！」という我々のスローガンに合致するものになるかと思えます。

併せて、来年から南郷・長柄小学区、小・中一貫教育ですが、施設分離型ですけれども、いよいよスタートを予定しています。その中で保護者向けの学校案内のようなものを今考えているんですけれども、この小・中一貫教育の在り方、目指すべきものにつきましては詳しくご紹介できればと考えています。

清水委員) よろしく願いいたします。

町長) ほかにいかがでしょうか。鈴木委員、お願いします。

鈴木委員) この加賀の、悪いとは思ってないんだけど、いろんな市なり、いろんなところの勉強するということは悪いことじゃないんだけど、勉強をし過ぎない。葉山独特のものを考えてつくるんだよ。そうしなきゃ意味がない。全然場所も地域も違うし、住んでる人も違うわけだから、前に教育長と話して、どうせなら葉山のど

ここに今度新しく学校ができたなら、あそこにヘリポート造ろうかなと言われた。これはじっと考えてね、確かに葉山はね、海側と山側の道がもし土砂崩れで埋まってしまったら動きが取れない。さすがにその地域地域をよく見てらっしゃるなと思って。そういう葉山独特の提案をしていかなかったら意味がない。他市県のものを、いろんなことを考えるのは僕はすごくいいことだと思うけど、やはり最終的にはこういうふうに上げていくんで、最終的に葉山の独特のものをこうするんだということを上げてこないとあまり意味がないと僕は思ってる。これが葉山のこういう部分と整合性がありますよという必要性はないって思ってるんでね。この市だけのことじゃなくて、いろんなところとの連携の中でね、葉山独自のものをつくってもらいたいのが私のお願いなんですけどね。以上です。

町 長) ありがとうございます。

教育部長) 鈴木委員のおっしゃるとおりだと思います。私たちも自分たちの肌感覚で、葉山にとって必要な計画をつくりたいと思っています。説明では整合するということのような言い方をしましたが、どちらかというところ、計画のようなものが、文字がたくさん並ぶような計画ではなく、見せ方というか、町民の皆さんと目的を共にする、共有するのに、こういうスライド形式であるとか、エビデンスみたいなものをしっかり提供する方式であるとか、そういう部分はまねをしたいと思うんですが、内容はやはり葉山らしさを追求してつくっていきたいと思っております。

鈴木委員) よろしくお願ひします。

町 長) その葉山らしさというのは見えてるんですか。

教育部長) この5つの“もっと”でいいねって考えたところなんです。なので、この5つが確かにこういう施策を具体でやれば、もっとわくわくする学びであるとか、もっとインクルーシブな学びになるだろうなという施策を、これから1年間一生懸命考えてまいりますので、全体として最後、その施策とともにこういう合い言葉なるものが皆さんにとって実感の持ってもらえるものになるよう努力しますので、しばらくお時間いただければと思います。

町 長) ありがとうございます。ほかに。小峰さん、お願いします。

小峰委員) すみません、もう皆さんのお話が進んだ中、戻すような質問で申し訳ないのですが、モデルとして加賀市を選んだ理由は何か、教えていただきたい。

教育部長) やはり加賀市が上手だなと思ったのは、エビデンスの見せ方ですかね。1つの教室の中にどのぐらい困り感のある子どもたちがいるというのを、非常に分かりやすく、視覚的に伝えていたり、その上で具体的にこういう施策を、時間軸も含めて、こういう時間でやっていくんだらうなという期待感を持てるような表現が

たくさん織り込まれているなど感じているところです。ほかの行政計画なんかでも、こういうスライド式みたいなものは今増えているのかなと。今まで行政の冊子スタイルのものだと、どうしても量も多く、なかなか全体に目を通してもらいづらいというふうなところもあったと思うので、できるだけ簡潔に、しかも我々がやりたいと思うことが伝わるということが大事かなと思って。幾つも自治体参考にしています。長野県でありますとか、いろんな先進自治体は一通り目を通したんじゃないかなと思います。その中でも、こうした会議で我々がつくるものに、より形が近いかなと思って選ばせてもらったのが加賀市のものだと受け止めていただければありがたいなと思います。

小峰委員) じゃあ、この見せ方で加賀市を選ばれたということだと、実際に今、加賀市がどの程度この目標に向かって、ご自分たちが考えている、その学校、その学びを深めていくというか、この目標にどこまで到達しているかというような、そういう情報は特にはお持ちではないですか。

教育部長) 詳細には承知していないところです。ただ、進行管理なんかでは、例えば埼玉県戸田市のような自治体の進行管理の方法、あそこは1年単位でものすごく丁寧に振り返りをやっていたり、毎年毎年ビジョンみたいなものをまとめて重点プロジェクトみたいなのが非常に分かりやすく、事業としてのマネジメントがすごく上手だなという自治体も参考にしているんで、幾つか、ビジョンとしての見せ方であるとか、施策の管理とはどうあるべきかとか、そういうのは組み合わせて考えていきたいなと思っているので、その辺りについても総合的に教育委員の皆さんには折を見て提案をさせていただければなと思います。

小峰委員) 先ほど鈴木委員がおっしゃったように、葉山町独自のものをつくっていくのが最終的な目的であるということは、先ほどのお話でそれを目指しているということも分かりましたし。だけど、こういう見せ方なり、それからどのように進捗状況を発表するかということについて、いろいろな都市を参考にしているということは、これから達成していくに当たって、大変貴重なものを収集していらっしゃるなということを感じましたので、これからのことを期待したいと思います。よろしく願いいたします。

町長) ほかにいかがですか。

下位委員) 今のご説明にあった、大人の人もわくわくし続けていくことが大切だという一文がありましたけど、私も本当にそう思います。先ほど小峰委員からもお話ありましたけれども、葉山にもPTAがありまして、PTAもわくわく楽しく活動できないと駄目だなみたいだったのかなと常に思っておりました。私がPTAをし

てた頃は、保護者のスポーツ大会やったりとか、PTA主催のお祭りをったりして、自分たち、PTAが楽しめるイベントを増やすようにしていました。コロナでいろいろなくなってしまったんですけども。少なくともその頃のPTAって、なり手がいなくて困る状況ではありませんでした。とはいえ、ここ数年は全国的にPTA縮小論のようなものもささやかかれていて、今後もしかしたら縮小していかざるを得ないのかもしれないかもしれません。学校と地域が連携していく中で、一番身近なところに立っていき存在がPTAであると思っていて、町内会の方も大切なんですけど、町内会の方って基本的に子どもとの関わりは直接はないはずなので、昔からそうですが、PTAがあって、子ども会があって、町内会というルートが確かにあると思うんです。なので、そういった意味でも大切なんじゃないかな。今、地域学校協働活動推進員がほぼ元PTAであることから分かるように、大切な地域の大人なんじゃないかなと思います。

すみません。生涯学習課にもぜひ協力をしていただいて、葉山のPTA、もっとももっと盛り上げていきたいなど、陰ながら思っていますので、どうぞよろしくお願いたします。以上です。

町長) ありがとうございます。ほかにはいかがですか。

清水委員) 今、小峰委員のお話にもあった、なぜ加賀市なのかというのは確かにありますが、参考になる事例であることは納得しております。教育委員会では長野の小学校を始め、参考となる教育機関の視察調査を実施しています。その結果は教育委員会定例会議でも伺っております。視察調査結果を今後SNS等を通じ発信などはされていく予定はありますか。もしくは印刷媒体をメインにされていくのか。公式noteなどで発信の可能性もあるのか、情報発信の方法をお伺いしたいです。

教育総務課長) 今、大分SNSとかも広まりもありますし、やっぱりある世代ではどちらが見ていただきやすいかというのを、例えばGoogleフォームを使ったアンケート一つとっても、そっちのほうがやりやすいという方もいれば、やはり紙媒体という方もいますので、しばらくはハイブリッドといたしますか、どちらも、どちらかに偏ることなく、様々な形でSNSと紙媒体と、両方の面から周知等のアプローチをかけていきたいと考えています。

清水委員) ありがとうございます。

町長) よろしいですか。

清水委員) はい。

町長) ほかにいかがですか。

教育長) 加賀市の話が大分出ましたので。加賀市については、教育長が替わったのが、

私が葉山に来た翌年だと思います。もともと横浜市の女性の方です。旧…旧というか、文科省の方です。ですので、一定の文部科学省からの出向に近い形で加賀市に入っていますね。非常に精力的に、国全体、文科のバックアップもありながら、加賀市というそもそもから言うと、石川県の中でも温泉街で、のんびりとされているところだったところに、一つの軸を持たせるという形で、教育を中心核に置いたところなんです。3年間の中で、1年目の後半でビジョンが作り上げられて、多分、今、3年が終わっているところになると思いますけれども、非常に精力的に動いていますし、逆にエビデンスも毎回毎回しっかりと出されているところの、全国の中の教育委員会の中でも相当着目されている教育委員会の一つだということです。宣伝も非常にある意味では、ある意味ではこれはお金も当然おかけになっているんだと思いますが、この「Be the Player」という合い言葉についても、ここの紙面だけで動いているわけではなくて、全ての学校にこのマークが、フラッグとして全部配備されていたり、あるいはまち中にもこのフラッグが普通に置いてあったり、サッカーチームの町にはサッカーの旗が結構ありますよね。ああいう形で、温泉街という加賀市全体の中が「Be the Player」という形で、子どもたちを中心に盛り上げようという、加賀市全体をもう一度再生しようという形の中で動いている、非常に着目されている市であるということです。

葉山は逆に言うと、元から着目されてるわけですから、そういう中で言うと、再生をする着目点は違いますけれども、どんな形で何をしていくと、地域の中、全体を巻き込めるかということについては、一つ参考になるところだろうなと思っている市だということです。そういう中では非常に面白みのある、これから先も教育の中心的なところで動いていく市として着目もこれからずっとされていく町だろう、市だろうと思っています。

I C T系のところ、G I G Aの端末に関してだけではなくて、ちょうど映っているところで言うと、右側の上にアドバイザーが、葉山も何人かアドバイザー、臨時的に指名していますけれども、加賀市もI C T含めて、相当著名なアドバイザーが何人も入っています。各校での探求的な学びは本当に多く、考えられないぐらいに授業が変わっているところというのが、Y o u T u b eであったり、S N Sであったり、どんどん発信がされているということです。葉山にとっても大分、今日も教育委員会の午前中でお話ししましたが、教育委員の方々と視察をさせていただいて、教育全体の中身も相当変わってはいますが、それをもう一歩先に行っている先進の市町村であるということで、見習うべきところは非常

に多かろうというところをまずちょっとお話をしておきます。

それから、プランの根幹の話ですけども、実は、そもそも、今まで第三次の葉山町の教育総合プランをもって現在教育委員会は動いています。今後、第四次に動いていくわけですけども、これについては町のほうの総合計画と連動しながら動いているというのがそもそもの考え方です。そういう中で、今回第四次の葉山町の総合教育プランは、新しい形として一応お示しをしているのは、一つは10年間の中期業務見積りのなビジョンと、それから単年度単位という実施計画にしましょうというところで一旦お示しをしています。現実的にはエビデンス含めて単年度でいけるかどうかというのは、教育総務課のほうと少し考えを整理しなければいけないね、さらに言うと、総合計画との整合性どうするかももう一度考える必要性はあるかもねというところで一旦話はさせていただいています。

そういう中でも、たまたま私が県の教育委員会にいるときに、現在神奈川県教育委員会が、いまだにまだその根本を持って動いているかながわ教育ビジョンというものを策定したときに、ちょうど私、教育委員会にいて、教育政策課という、まさしくつくっている中に存在していました。神奈川県教育ビジョンにつきましては、20年間の中期業務見積りのな形でのビジョンです。その中で神奈川県は何をしてきたかという、実を言うと、ビジョンの中で各全ての教育機関、学校、高等学校、それから特別支援学校、それから社会教育施設等々、全部絡めた中で、一旦、今葉山が言ってるシュリンクに近い物の考え方、これが最初から分かっていた関係があるので、高等学校については再編の計画を3期に分けてやっていく。現在、後期の計画がスタートしていますけれども、そういうものも含めて、子どもたちが減っていく中で、学校全体、教育全体をいかに単体として一つの学校ごとに個性化をどういうふうに出していくのかというところを明確化したのがかながわ教育ビジョンだったりします。

ただ、ビジョンのそのお題目にあるのは当たり前ですけども、教育に関わる根幹をどう考えていくのかというところが前提で語られていて、それをもとにしながら20年間の教育を語っているというところでお考えいただければと思います。

そういう中のものをこれからの葉山町は10年先を見越しながら、生涯学習も当然含める形の中で、どんなまちづくりをしていくのか、そこの中の一端として教育を語るということで、ビジョンをつくったらいかがでしょうかということで、教育総務課を中心に今つくっていただいている最中です。明日からまた新しくこのプランをどうするか会議が始まってまいりますので、その中でも様々もんでいただきながら、よりいいものになっていければいいというところがございます。

形づくりのフレームワークになりますので、問題は学校の中身の授業というものをどうしていくのかというところが、この中にはどう盛り込んでいくのかというのは、やっぱりすごく重要です。ここがしっかりしてこないと、フレームをつくったところで、簡単に言うと、仏つくって魂が入らないと話になりませんので、そこも含めて、全体を語れていけるといいんだろうなと思いながら、計画をつくらせていただければと思っている次第です。

町 長) ありがとうございます。この事業ですね、私はもう完全に素人なので、そういう話もぜひ、この場も含めて学ばせていただきたいなと思っているところです。ほかに皆さんいかがでしょうか。よろしいですか。では、協議題は以上で終了となります。

(その他)

町 長) 皆様方からその他の次ございますけども、何かご意見などございますか。よろしいでしょうか。ありがとうございました。ちなみに、ワークショップはいいんですけども、もう一つプランのほうですね。そちらの件の進捗というのは、こちらで報告されたりはしますか。

教育部長) そうですね、進捗を見て報告、例えば次回の総合教育会議の協議題にするか、ご相談させていただければと思います。

町 長) 分かりました。ほかに、皆さんからよろしいでしょうか。特になければ、その他の項目を終わりにさせていただきたいと思います。本日の日程、全てこれで終了とさせていただきます。では、進行を事務局にお返しします。

(閉会宣言)

教育部長) ありがとうございます。それでは、以上をもちまして令和6年度第1回葉山町総合教育会議を閉会いたします。

次回の日程は決まり次第お知らせしたいと思います。

時刻は14時52分。お疲れさまでした。ありがとうございました。